

世界史 アフリカ・ラテンアメリカ史 確認問題集

全19問 / 解答・解説は後半

名前

記事「世界史 アフリカ・ラテンアメリカ史まとめ | 王国の興亡と独立」を読んだあとに解く問題集です。答えを書いてから後半の解答・解説で確かめ、間違えた問題は解説にある記事の節を読み直してください。

第1部 一問一答

問いに当てはまる語句を答えなさい。

- 1 クシュ王国がアッシリアに追われたのちに都を移し、製鉄がさかんになった都市はどこか。

- 2 ガーナ・マリ・ソンガイの各王国が栄える土台となった、サハラ岩塩と西アフリカの金を交換する交易を何というか。

- 3 15世紀後半にマリに代わって台頭したソンガイ王国の都はどこか。

- 4 マリンディ・モンバサ・キルワなど、東アフリカの港町で育った都市の文化を何というか。

- 5 1498年、マリンディでムスリムの水先案内人を得て、インドのカリカットに着いたポルトガルの航海者は誰か。

- 6 ベルリン会議でベルギー国王レオポルド2世の組織による統治が認められ、国王の私有地として生まれた国は何か。

- 7 カイロ・ケープタウン・カルカッタの3都市を結ぶ地域を勢力下に置こうとした、イギリスの政策を何というか。

- 8 文字をもたなかったインカ帝国で、ひもの結び目の位置や色で数を表し、人口などを記録した方法を何というか。

- 9 先住民への虐待を告発し、エンコミエンダ制を厳しく批判したドミニコ会の修道士は誰か。

- 10 米西戦争後の1901年、独立したキューバに受け入れさせ、キューバを事実上の保護国にした条項を何というか。

第2部 正誤問題

次の文ア～エのうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 11 西アフリカの王国について。

- ア ガーナ王国の王は、塩と金の取り引きに税をかけて富を集めた。
- イ マンサ＝ムーサはマリ王国の王で、メッカへ巡礼した。
- ウ ソンガイ王国は、1591年にポルトガル軍に敗れて崩壊した。
- エ トンブクトゥは、ソンガイの時代にイスラーム文化と学問の中心となった。

- 12 アフリカ分割について。

- ア ベルリン会議は、ドイツのビスマルクの呼びかけで開かれた。
- イ ファショダ事件では、イギリスが譲歩して兵を引いた。
- ウ エチオピアは、アドワの戦いでイタリア軍を破った。
- エ リベリアは、アメリカ合衆国から移った解放奴隷が建てた共和国である。

- 13 ラテンアメリカの征服と植民地社会について。

- ア コルテスは1521年にアステカ王国を征服した。
- イ トルデシリャス条約では、境界線の西側をポルトガルの範囲とした。
- ウ ポトシ銀山の銀がヨーロッパに流れこみ、価格革命の原因となった。
- エ スペイン領では、17世紀ごろからアシエンダと呼ばれる大農園が広がった。

- 14 ラテンアメリカの独立について。

- ア ハイチは黒人奴隷の反乱を経て、1804年に独立した。
- イ スペイン領の独立運動の中心は、植民地生まれの白人であるクリオーリョだった。
- ウ ブラジルは、ポルトガルの王子が皇帝となり、帝国として独立した。
- エ モンロー教書は、ヨーロッパ諸国がアメリカ大陸の問題に干渉することを支持した。

第3部 年代の並べ替え

次のア～エを、古いものから年代順に並べなさい。

15 アフリカの王国に関する出来事を年代順に並べなさい。

ア ソンガイ王国がモロッコ軍の攻撃で崩壊した。

イ ガーナ王国がムラービト朝の攻撃を受けた。

ウ マンサ＝ムーサがメッカへ巡礼した。

エ アクスム王国がクシュ王国を滅ぼした。

16 アメリカ大陸の征服に関する出来事を年代順に並べなさい。

ア ポトシ銀山が発見された。

イ ピサロがインカ帝国を征服した。

ウ コロンブスがカリブ海の島に到達した。

エ コルテスがアステカ王国を征服した。

17 ラテンアメリカの独立とアメリカ合衆国に関する出来事を年代順に並べなさい。

ア ブラジルが独立した。

イ 米西戦争が起こった。

ウ ハイチが独立した。

エ モンロー教書が発表された。

第4部 論述問題

次の問いに答えなさい。字数は目安です。

18 19世紀後半から20世紀初めにかけてのアフリカ分割について、ベルリン会議の原則と列強の対立にふれながら150字程度で説明しなさい。

19 スペイン領ラテンアメリカの植民地社会のしくみと、19世紀前半の独立運動の担い手について150字程度で説明しなさい。

.....

世界史 アフリカ・ラテンアメリカ史 確認問題集 解答・解説

第1部 一問一答

1 メロエ

周辺が鉄鉱石と燃料になる木に恵まれていました。独自のメロエ文字も使われましたが、今も解読されていません。

記事の該当箇所：地域ごとに詳しく見る／アフリカ（1）

2 サハラ縦断交易

ラクダの隊商で砂漠を越え、アラブ人やベルベル人の商人が南北の産物を仲立ちしました。東アフリカのインド洋交易と区別して覚えます。

記事の該当箇所：地域ごとに詳しく見る／アフリカ（2）、比べて覚える

3 ガオ

ソンガイの時代、トンブクトゥにはモスクや大学が建てられ、イスラーム文化と学問の中心になりました。

記事の該当箇所：地域ごとに詳しく見る／アフリカ（2）

4 スワヒリ文化

港町ではバントゥー系の言葉にアラビア語が多く取り入れられて、スワヒリ語が生まれました。

記事の該当箇所：地域ごとに詳しく見る／アフリカ（3）

5 ヴアスコ＝ダ＝ガマ

これ以後、インド洋にヨーロッパ勢力が入りこみ、モンバサなどの港町はポルトガルとの争いに巻きこまれました。

記事の該当箇所：地域ごとに詳しく見る／アフリカ（3）

6 コンゴ自由国

ゴムや象牙を集めるための過酷な支配が国際的な非難を浴び、1908年にベルギーの植民地へ切りかえられました。

記事の該当箇所：地域ごとに詳しく見る／アフリカ（4）

7 3C政策

アフリカでは、カイロとケープタウンを結ぶ縦断政策として進められ、フランスの横断政策とファショダで衝突しました。

記事の該当箇所：地域ごとに詳しく見る／アフリカ（4）

8 キープ（結縄）

インカ帝国はクスコを都とし、15世紀に現在のエクアドルからチリに及ぶ大帝国となりました。

記事の該当箇所：地域ごとに詳しく見る／ラテンアメリカ（1）

9 ラス＝カサス

エンコミエンダ制は、先住民の保護とキリスト教化を条件に植民者に支配をゆだねる制度でしたが、実際には先住民の酷使につながりました。

記事の該当箇所：地域ごとに詳しく見る／ラテンアメリカ（2）

10 プラット条項（プラット修正）

1930年代にフランクリン＝ローズヴェルト大統領が善隣外交に転じると、1934年に廃止されました。

記事の該当箇所：地域ごとに詳しく見る／ラテンアメリカ（3）

第2部 正誤問題

11 ウ

ソンガイ王国を崩壊させたのは、北のモロッコ軍の攻撃です。ヨーロッパ勢力ではありません。

記事の該当箇所：地域ごとに詳しく見る／アフリカ（2）、入試で狙われるポイント

12 イ

ファショダ事件で譲歩したのはフランスです。これを機に両国は歩み寄り、1904年に英仏協商を結びました。

記事の該当箇所：地域ごとに詳しく見る／アフリカ（4）

13 イ

トルデシリャス条約では、境界線の西をスペイン、東をポルトガルの範囲としました。そのため1500年にカブラルが到達したブラジルはポルトガル領となりました。

記事の該当箇所：地域ごとに詳しく見る／ラテンアメリカ（2）

14 エ

モンロー教書（1823年）は、アメリカ大陸とヨーロッパの相互不干渉を唱え、ヨーロッパの干渉に反対するものでした。

記事の該当箇所：地域ごとに詳しく見る／ラテンアメリカ（3）

第3部 年代の並べ替え

15 エ→イ→ウ→ア

アクスムによるクシュの滅亡（4世紀）→ガーナへの攻撃（1076年ごろ）→マンサ＝ムーサの巡礼（1324年）→ソンガイの崩壊（1591年）の順です。

記事の該当箇所：まず全体像（年表）

16 ウ→エ→イ→ア

コロンブスの到達（1492年）→アステカ征服（1521年）→インカ征服（1533年）→ポトシ銀山の発見（1545年）の順です。

記事の該当箇所：地域ごとに詳しく見る／ラテンアメリカ（2）

17 ウ→ア→エ→イ

ハイチの独立（1804年）→ブラジルの独立（1822年）→モンロー教書（1823年）→米西戦争（1898年）の順です。

記事の該当箇所：地域ごとに詳しく見る／ラテンアメリカ（3）

第4部 論述問題

- 18 解答例：19世紀後半、ヨーロッパ諸国は原料の供給地と製品の市場を求めて、アフリカの内陸へ進出した。ビスマルクの呼びかけで開かれた1884～85年のベルリン会議では、他国への通告と実効支配を条件とする領有の原則が定められ、分割の競争は加速した。イギリスの縦断政策とフランスの横断政策は1898年のファショダ事件で衝突したが、フランスが譲歩した。20世紀初めまでに、エチオピアとリベリアを除く全土が分割された。

採点のポイント：①原料・市場を求めた進出、②ベルリン会議（ビスマルク、通告と実効支配）、③縦断政策と横断政策、ファショダ事件、④独立を保ったエチオピアとリベリア、が入っているか。

記事の該当箇所：地域ごとに詳しく見る／アフリカ（4）、論述で使える要点

- 19 解答例：スペインはエンコミエンダ制で先住民を支配したが、酷使と感染症で先住民は激減し、黒人奴隷が運ばれた。社会では白人が先住民や黒人、混血の人々を支配したが、植民地生まれの白人であるクリオーリョは本国生まれの白人より不利な立場に置かれた。クリオーリョは合衆国の独立やフランス革命に刺激され、ナポレオンのスペイン占領で本国がゆらぐと、ボリバルやサン＝マルティンのもとで独立を進めた。

採点のポイント：①エンコミエンダ制と先住民の激減、②黒人奴隷、③白人による支配とペニンスラール・クリオーリョの区別、④独立運動の担い手としてのクリオーリョと、その背景（合衆国の独立・フランス革命・ナポレオンのスペイン占領）、⑤ボリバルやサン＝マルティン、が入っているか。

記事の該当箇所：地域ごとに詳しく見る／ラテンアメリカ（2）（3）、論述で使える要点

記事：世界史 アフリカ・ラテンアメリカ史まとめ | 王国の興亡と独立 <https://lawcityblog.com/sekaishi-theme-chiiki-africa-latin/>

問題・解説は文系ラボのオリジナルです。無断転載を禁じます。